# 3 平成30年度活動実績

### (1)リクルート等の実績

1)リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯 (表1) 福島ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村 を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登 録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変した。南相馬市の一部地域及び双葉郡は立入禁止区域となり住民は各地に避難し、リクルートを中断した。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となりリクルートを行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの 登録は、母親が出産し1カ月健診終了の同年12月まで実施した。

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月~26年3月(3年2カ月)	平成24年10月~26年3月(1年半)

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

#### 2)母親、父親及び子どもの参加者数

平成28年度中に、参加者登録状況についてデータクリーニング及び確認作業を行った結果、 母親のリクルート数はのべ13,131人、父親のリクルート数は8,694人、子どもの出生数は 12,867人となった。

子どもの参加者年齢は、平成31年3月31日現在で4歳4カ月~7歳8カ月であり、4歳までのエコチル調査は終了した。

### (2)全体調査

#### 1)質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は、参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとに コアセンターから参加者宅へ発送され、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

平成30年度は、3.5歳児から7歳児、小学1年までの計8種類、総計24,056部の質問票を発送した。4歳児質問票は平成30年11月に全ての発送を終了し、新たに7歳児質問票が6月か

ら発送を開始した。また学童期から質問票の発送は、誕生月と小学1年質問票を秋頃に一斉 発送と変更になった。(表2)

_										
	質問票種類	3歳	3.5歳	4歳	4.5歳	5歳	5.5歳	6歳	7歳	小学1年
	福島本部事務所	0	27	902	1,814	2,026	1,919	1,679	952	901
	郡山事務所	0	97	2,102	4,074	4,241	2,611	574	53	48
	計	0	124	3,004	5,888	6,303	4,530	2,253	1,005	949

表 2 平成30年度 質問票調査発送数

平成31年3月26日現在の質問票回収率(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に低下している。全国15ユニットセンターの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移してきていたが、一時的に低くなる状況も見られるようになった。現在、質問票が発送後5週間以上返送されない場合、返送を促す等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

20	<b>741 474.17 422.74</b>	16 1 10 ( 1 /9 to 1 )	· / • - • · · / • / /		
質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)		
貝門亦但想	貝門示兀匹奴	四1人致	福島	全国平均	
6 か月	12,832	12,440	96.9	94.1	
1歳	12,737	11,986	94.1	91.3	
1.5歳	12,692	11,555	91.0	89.2	
2歳	12,655	11,099	87.7	87.2	
2.5歳	12,632	10,742	85.0	85.6	
3歳	12,607	10,425	82.7	84.2	
3.5歳	12,570	9,977	79.4	81.6	
4歳	12,417	9,633	77.6	80.2	
4.5歳	9,509	7,179	75.5	78.3	
5歳	6,345	4,658	73.4	76.2	
5.5歳	3,192	2,400	75.2	77.2	
6歳	1,770	1,336	75.5	77.1	
7歳	332	237	73.6	75.8	
小学1年	949	774	76.0	76.3	

表 3 質問票調査実施状況(平成31年3月26日現在)

## 2)疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、子どもが特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ二次調査票の記入を依頼するものである。 対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・ 代謝異常、てんかん・けいれん、小児がん、精神神経発達障害ある。

参加者が診断治療を受けた県内外医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

#### 3)フォローアップ状況

調査参加者が、福島ユニットセンターから他ユニットセンター対象地域に転居する場合又は他ユニットセンターから福島県内へ転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外へ転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所のあて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者へは、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

母親の妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能な状況であるが代諾者(主に母親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。

平成30年度の子どもの調査取りやめ件数は 51件で理由は多忙、質問の回答が負担、子ども・母親の健康状態、家事都合などであった。

### 4)フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニューズレターの発行などを実施している。((P. 7)広報活動参照)

#### (3)詳細調査

1)精神神経発達検査(新版K式発達検査)及び医学的検査の実施

平成29年4月から4歳精神神経発達検査、同年5月から医学的検査を実施した。

精神神経発達検査 訓練を受けた検査者の面談による検査を実施

医学的検査 身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施

#### ① 協力病院・施設

詳細調査の精神神経発達検査及び医学的検査を実施するため、表4の協力医療機関・施設に協力を得た。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員(心理士)が出向いて検査を実施した。

表 4 詳細調查協力医療機関·施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	精神神経発達検査
1	公立藤田総合病院	0	検査会場借用
2	大原綜合病院	0	
3	福島県立医科大学附属病院	0	0
4	公立相馬総合病院	0	検査会場借用
5	星総合病院	0	○*1
6	太田西ノ内病院	0	0
7	白河厚生総合病院	0	検査会場借用
8	竹田綜合病院	0	0
9	福島県立南会津病院	0	検査会場借用
10	いわき市医療センター	0	検査会場借用*2
11	国立病院機構福島病院*3	0	
12	第二子どもの家		0
13	子どもの家保育園		0

- ※1 検査者の都合で平成29年10月~平成30年1月にかけ場所のみ借用した。
- ※2 精神神経発達検査の欠測を減らすため平成29年6月から場所のみ借用した。
- ※3 医学的検査の欠測を減らすために平成30年4月から協力を得た。

#### ② 4歳精神神経発達検査及び4歳医学的検査実施件数

精神神経発達検査 平成29年4月~平成30年3月 340件

平成30年4月~平成30年12月 218件 計558件(完了)

医学的検査 平成29年5月~平成30年3月 302件

平成30年4月~平成30年12月 236件 計538件(完了)

### <各協力医療機関・施設訪問>

#### 平成30年12月~

4歳医学的検査および発達検査が終了したことに伴い、各協力医療機関・施設を訪問し、お礼を述べるとともに6歳医学的検査について説明した。検査上の問題や課題について相談するとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聴いた。併せて平成31年度の検査体制についての変更点を確認し、引き続き検査への協力を依頼した。

6歳からの新規協力医療機関へは、6歳医学的検査について協力依頼し必要事項の説明・確認をするとともに、福島ユニットセンターに対する要望等を聴いた。

### <6歳医学的検査に向けたアンケート調査>

4歳医学的検査では、保護者の「仕事の都合」などで協力できない参加児が1割を超えた。 そこで、保護者が都合をつけやすい曜日・時間帯に、医学的検査を実施できる医療機関に 協力を得るためアンケート調査を実施した。

平成30年4月 保護者対象のアンケート

平成30年7月 福島県小児科医会へのアンケート

平成30年9月 協力を得る医療機関へのアンケート

### 2)詳細調查関連会議等

① 検査担当者の情報交換会

平成30年9月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

② 新版K式発達検査リーダー・検査者会合

平成30年7月 発達検査リーダー会合(東京・Web)

平成31年2月 発達検査リーダー会合(東京・Web)

③ メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)とのWeb会議 平成30年4月~平成30年9月 計5回

④ 精神神経発達検査定例会

平成30年5月~平成31年3月 計10回

出席者:医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、 福島県立医科大学小児科医、リサーチコーディネーター

⑤ 詳細調査担当リサーチコーディネーター会議 平成30年4月~平成31年3月 計13回

3)研修会・講習会・認定試験

平成30年12月 6歲詳細調査説明会(東京) 受講者12名

平成31年1月 6歳医学的検査説明会(郡山市)

参加者(担当医師・看護師) 計23名

平成31年1月 6歳医学的検査説明会(福島市)

参加者(担当医師・看護師) 計16名

#### (4)地域運営協議会

1)開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績

や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

### 2)開催状況

平成30年度も、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。

	協議会名称	開催日	開催地		
1	福島県地域運営協議会	平成30年7月23日(月)	福島市		
2	県北・相双地域運営協議会	平成30年10月1日(月)	福島市		
3	会津地域運営協議会	平成30年10月11日(木)	会津若松市		
4	県中・県南地域運営協議会	平成30年11月19日(月)	郡山市		
5	いわき地域運営協議会	平成30年11月30日(金)	いわき市		

表5 地域運営協議会の開催状況

#### 3)内容

- ○環境省・コアセンターから全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をい ただいた。
- ○本県のエコチル調査の活動状況、環境省からの年次評価、質問票集計中間結果等について報告した。
- ○参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待すること・要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。



福島県地域運営協議会(平成30年7月23日:福島市)

### (5)市町村訪問

平成30年9月に、毎年実施している市町村訪問を行った。

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

### (6)協力医療機関訪問

疾患情報登録調査を依頼する医療機関を訪問し、「人を対象とする医学系研究に関する倫理 指針」の一部改正により、医療機関に疾患情報提供記録を保管していただくよう説明を行った。 また、平成29年度より開始した詳細調査について、小児科のある二次医療機関の協力を得て、 4歳時医学的検査・精神神経発達検査を実施した。

令和元年度より開始予定の詳細調査・6歳医学的検査に向けて実施率を維持する目的で、新たに21の一次医療機関に協力をお願いした。県内32の協力医療機関への説明会・訪問を行い6歳医学的検査の準備を進めた。

### (7)教育関連機関訪問

平成30年5月から6月にかけて、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の 方々を訪問し、エコチル調査について説明の上、調査への理解と協力を求めるとともに、福島 県地域運営協議会委員への就任を依頼し、承諾をいただいた。

また、平成30年5月に、福島県内59市町村の教育委員会で構成する福島県市町村教育委員会連絡協議会の定期総会において、エコチル調査について説明を行い、理解と協力を求めた。

### (8)広報活動

1)子育て講演会&ファミリーコンサートの実施

開催日:平成30年9月2日(日)

開催 地:福島市

会 場:福島県立医科大学講堂

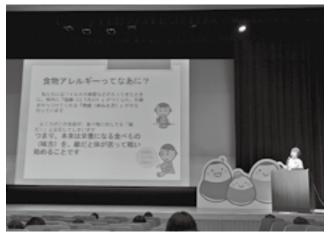
参加者数:305名

福島ユニットセンターに属する参加者へのフォローアップ率維持及び県民に対するエコチル 調査の認知度向上及び協力体制の構築を目的としたイベントを開催した。調査参加者をはじめ、 全県域の関係機関、公共施設等に対しチラシを配布するなどの広報を実施した。また、フリー ペーパーに広告を掲載、地元新聞社にはイベントの開催をお知らせした。

エコチル参加者の関心が高い子育でに関するテーマの講演会と親子で楽しめるファミリーコンサートの2部構成とした。第1部においては、事前申込制による託児室を併設し、公益財団法人星総合病院 診療部長兼小児科部長 佐久間弘子先生による講演や、当ユニットセンター長による調査の進捗状況や集計結果の報告を行い、第2部では、井上あずみ&ゆーゆによるミュージックライブを行った。

会場内に、調査の最新データなどのパネルを掲示するとともに、子育てや医療に関する相談 コーナーを設置した。





公益財団法人星総合病院

診察部長兼小児科部長 佐久間弘子先生

子育て講演会

演題:「みんなで守る:食物アレルギーと学校

給食について」



福島ユニットセンター長 橋本浩一 報告:「エコチル調査でわかったこと」



ファミリーコンサート 「井上あずみ&ゆーゆ ミュージックライブ」 調査参加者の対象児(4~7歳)と親子で楽しめる コンサート

ジブリ映画の主題歌や、参加型クイズなどで会場が一体となった



託児室の開設(事前申込制)



エコチル調査の概要や集計データのパネル掲示



熱中症対策のためホワイエ内モニター前に給水場 を設置し、安心して参加できる環境を整備した

#### ■フリーペーパー掲載



リビング福島 広告掲載



元気ッズ!ふくしま 広告掲載

### ■新聞掲載



福島民友 8月14日掲載





福島民報 9月4日掲載

### 2)エコチル★ふくしま 環境セミナーの実施

開催日:平成31年2月10日(日)

郡山市ミューカルがくと館

対象者:エコチル参加者・一般の方

参加者数:32名

講師:世界自然保護基金ジャパンWWFジャパン 松浦 麻子先生

目 的:調査参加者様の環境問題に対するご関心などにお応えすることを目的に開催した。 福島ユニットセンターでは初めての催しとなる。

内 容:テーマ「外来種って、なぁに?」について、90分の講演。

来場者から「外来種についての知識はあったが、理解を深めることができた」、「外来種の生き物が身近にあふれていることを知り、驚いた」、「今日学んだことを問りの人にも伝えていきたい」、「次回は環境への影響や人への影響についてなども、具体的にきいてみたい」などの感想が寄せられ、外来生物の問題を身近に感じ、より興味を持っていただけた。

会場には、環境省より借りた「ケミカルパズル」や「ケミカルすごろく」を設置し、 身近な化学物質についても、分かりやすく理解を深めていただくことができた。







### 3)エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとがコミュニケーションを持ち、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、これまで子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

平成30年度は、学童を対象とした親子ふれあい会を新たに企画し開催した。 ふれあい会の対象と内容は表6のとおりである。

対象	ふれあい会の内容			
3歳児	①親子ダンス(3B体操、キッズダンス) ②小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談			
4-6歳児	①親子リトミック ②キッズダンス ③小児科医のミニ講話、助産師による子育て相談			
保護者	①子育てに関する参加型ワークショップ ②笑いヨガ ③子育て相談 ④ストレッチ ⑤茶話会(保護者同士のふれあい・スタッフとのふれあい・相談など)			
学童	①霊山子どもの村(ワークショップ) ②小児科医のミニ講話			

表6 ふれあい会の対象と内容

平成30年度ふれあい会の実施回数は16回、参加親子組数は計200組であった。(表7)

対象児	平成24-29年度(6年間)		平成30年度		計	
<b>对象范</b>	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	40	806			40	806
1.5歳児	33	582			33	582
3歳児	27	325			27	325
4-6歳児	7	110	8	137	15	247
親子対象	5	81			5	81
保護者対象	9	69	7	50	16	119
学童対象			1	13	1	13

表7 ふれあい会開催状況

#### 4)ニューズレターの発行

2018年夏号(平成30年7月)及び2018年秋号(平成30年9月)、2018年冬号(平成30年12月)、2019年春号(平成31年3月)の4回発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,000部、市町村等関係機関あて約750部、計12,750部発送)(資料3参照)

#### 5)協力医療機関及び施設への活動報告

精神神経発達検査及び医学的検査の13協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査 ★だより」を毎月発行した。詳細調査の進捗状況、取り止め数、未実施(欠測)数、精神神経 発達検査及び医学的検査月別検査予定数、参加者への結果報告書の送付数などについて報告 した。(第34号~第45号まで発行)





エコチル★詳細調査★だより 第44号(平成31年2月発行)

# 6)メールマガジンの配信

大学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信:エコチル調査」を計11回配信

送信日	トピック	論文紹介
平成30年4月26日	エコチル調査とは/エコチル調査の目的/福島県内の調査地域は? エコチル調査の参加状況	
5月24日	協力体制は?	妊婦のカフェイン含有飲料の消 費量と血清葉酸濃度
6月28日	参加者の生活変化に合わせた実施体制	エコチル調査に関する暴露評価 の計画と課題に関する総説
7月26日	東日本大震災後に調査対象地域が拡大 されたエコチル調査	妊婦の血液中重金属濃度と早産 の関係
8月23日	「子育て講演会&ファミリーコンサート」の開催	母親のアレルギー疾患とSmall- for-Gastational-Age(SGA)の関 連について
9月27日	オール福島で実施されているエコチル 調査	つわりの程度と早産リスクの関 連性について
10月29日	エコチル調査でのデータを利用して研 究をするには?	生殖補助医療による妊娠における精神的ストレス
11月29日	質問票回答結果をリーフレットにまと めました	母親の自閉症傾向特性と子どもへ の愛着形成との関連性について
平成31年1月24日	教養講座、環境セミナーを開催します	
3月1日	「環境セミナー」を開催しました	食事からのイソフラボン摂取と 尿道下裂との関連性について
3 月28日	「学術ワーキンググループ(WG)会議」、 「学内報告会」を開催しました	魚介類/n-3系多価不飽和脂肪酸摂取と、アレルギー性疾患との関連

### 7)市町村主催のイベントへの参加

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、市町村が主催するイベントのブースに出展し、活動内容や調査でわかったことなどについて広報活動を行った。(表8)

	次0 市時打工庫1 V 1 V/9	אוייייייייייייייייייייייייייייייייייייי
主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	こどもまつり	平成30年5月5日(土)
福島市	公立藤田総合病院健康フェスタ	平成30年5月12日(土)
郡山市	ファミリーフェスタ郡山	平成30年9月30日(日)
会津若松市	会津健康まつり	平成30年9月30日(日)
福島市	福島市健康フェスタ	平成30年10月14日(日)

表8 市町村主催イベントへの参加状況



こどもまつり



公立藤田総合病院健康フェスタ



ファミリーフェスタ郡山



会津健康まつり



福島市健康フェスタ

#### 8)グッズの作成等

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、全調査参加者にオリジナルカレンダー及びクリアファイル、3歳児にはハンドタオル、小学校の新入児童には入学お祝いとしてエコチル名入り鉛筆をそれぞれ贈呈した。

また、ふれあい会や市町村イベント等においては、ティッシュやボールペン等を配布し、 広報活動に努めた。

### (9)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

#### 1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

### 2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみの父親および銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した母親または父親について、12,154名(平成31年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

#### 3) その他

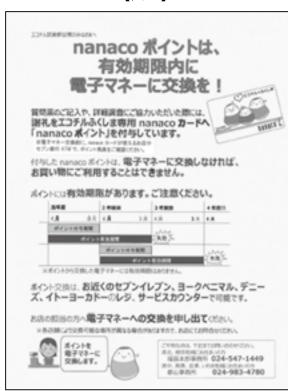
これまでnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について、発行時における取扱 説明書の配付、ニューズレターでの定期的なお知らせ、エコチルカレンダーの1面を使って の案内等により参加者全員に対し周知を図ってきた。

平成30年度には、nanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について周知徹底を図るため、これまでの方法に加え新たに次の方法により注意喚起を行った。

- ①質問票郵送時にnanacoポイント有効期限・ポイント交換案内のチラシ(A4 1枚)を同 封【図1】
- ②ニューズレター発送用封筒に、nanacoポイント交換案内を掲載【図2】

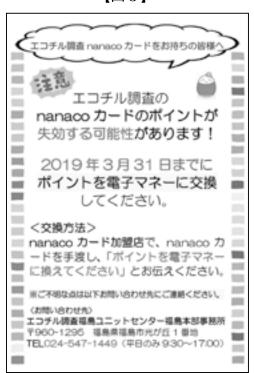
- ③ニューズレター夏号のトップページ下段にnanacoポイント有効期限・ポイント交換案内の記事を掲載
- ④平成31年3月末までにnanacoポイントが失効する可能性のある参加者へ案内はがきを送付【図3】

【図1】 【図2】





【図3】



電子マネーカード



### (10)研修等

### 1)RC代行研修

平成30年度は、ユニットセンター職員等9人に対して入職時に6回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計66回、受講者は計657名となった。

### 2)他ユニットセンターとの情報交換会

宮城、富山の各ユニットセンターを訪問し、情報交換を行った。(表9)

	200 12 7 1 - 7 2 7 10 7 10 7 10 7						
訪	問先	訪問日	訪問職員	情報交換の内容			
<b>台</b> 44		平成30年11月30日(金)	RC職員2名 事務職員1名	・ユニットセンター質問票発送業 務移管に関わる情報交換			
宮 城  - 	城	平成30年12月19日(水)	教員1名 事務職員1名	・調査業務全般についての情報交 換			
富	山	平成31年3月9日(土) ~平成31年3月10日(日)	教員1名 RC職員2名 事務職員2名	・公開セミナーへの参加 ・成果発表に関わる情報交換			

表9 他ユニットセンターとの情報交換会

### 3)職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

- 平成30年4月、10月
  男女共同参画の推進
- ② 平成30年7月

全体調査及び詳細調査の状況、個人情報管理、リスク管理 教養講座「職場のメンタルヘルス」 (福島県立医科大学 大学健康管理センター 松本貴智先生)

### ③ 平成31年2月

全体調査及び詳細調査の状況、学童期検査及び質問票発送業務の準備状況、 個人情報管理、リスク管理

教養講座「環境化学物質の健康影響とエピジェネティクス」

(国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター 野原恵子先生)

#### 4) 他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査スタッフ研修(平成30年10月実施)及びリスクコミュニケーション研修(平成31年1月実施)に積極的に参加した。

### (11)学術研究

1)エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置した。

平成30年度は、「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を平成30年10月10日及び平成31年3月20日の2回開催した。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

### 2)中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が平成30年8月9日及び平成31年3月8日の2回開催された。

当ユニットセンターでは、6名の教員が積極的に参加し、中心仮説に関する研究計画について討論した。

# 3)学会発表・論文執筆

#### 1)論文執筆

• The Effect of Maternal Age at the First Childbirth on Gestational Age and Birth Weight: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

母体年齢が初回分娩における妊娠週数、出生体重に与える影響(エコチル調査)

経塚 標 他 J Epidemiol. 年:2019 月:5巻:29(5)頁:187-191

オンライン掲載 2018年8月4日

• The Japan Environment and Children's Study (JECS) in Fukushima Prefecture : Pregnancy Outcome after the Great East Japan Earthquake

(福島県のエコチル調査:東日本大震災後の妊娠帰結)

経塚 標 他 Tohoku I Exp Med. 246巻(1)P27-33 2018.9

· Risk of preterm birth, low birthweight and small-for-gestational-age infants in

pregnancies with adenomyosis: A cohort study of the Japan Environment and Children's Study.

子宮腺筋症が分娩週数, 出生体重に与える影響(エコチル調査) 山口明子他 Acta Obstet Gynecol Scandinavica. 2019.3巻:98(3) P359-364 オンライン掲載 2018年10月26日

・大規模出生コホート調査における精神神経発達検査の実施状況と課題~エコチル調査福 島ユニットセンターでの取り組みから~

尾形優香他 福島県保健衛生雑誌 33巻 P52-57 2019.3

### ②学会発表

- ・平成30年10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会 出生コホート調査における現参加者数維持のためのコミュニケーション活動とその課題, 佐藤晶子
- ・平成30年10月25日 第77回日本公衆衛生学会総会 大規模出生コホート調査における発達検査の実施状況と課題(エコチル調査より), 尾形優香
- ・平成30年10月26日 国際シンポジウム

子どもの環境保健研究の公衆衛生学的意義:エコチル調査等の出生コホート研究の地域 公衆衛生活動への貢献,「東日本大震災の復興とともに歩む福島県でのエコチル調査」, 橋本浩一

(追加調査)

・平成30年7月8日~10日 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会 ヒトパレコウイルス3型HPeV3に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子と の関連。

清水裕美 他

・平成30年8月30日~31日 第42回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 メタボローム解析を用いた早発妊娠高血圧症候群における妊娠初期血液代謝産物の網羅 的解析.

経塚標 他

・平成30年10月11日~13日 第59回日本児童青年精神医学会 福島市における東日本大震災後の子どもの精神状態と発達障害との関連について-エコ チル追加調査-.

板垣俊太郎 他

### (12)エコチル調査でわかってきたこと

エコチル調査の結果を参加者や関係者に広く知らせるため、これまで参加者の皆様からご提出いただいた質問票の中から、特に関心が高いと思われる項目について福島県のデータを中心に集計しグラフ化してまとめた小冊子を平成30年11月に作成し、参加者及び関係者に配付した。また、多くの方にご覧いただくために、福島ユニットセンターホームページ(http://www.ecochil-fukushima.jp/)の「みんなの図書室」に掲載した。

